

2 February 2013

第706号
平成25年2月1日発行
(毎月1日発行)

めかわ

[広報] Public Relations SAMEGAWA

平成25年2月1日発行 (毎月1日発行)
第706号 (昭和27年9月創刊)

発行／福島県飯川村 編集／飯川村役場企画課監修
〒963-8401 福島県東白川郡飯川村大字河原坂中字字宿 39 飯地5

特集

はたちは
二十歳の
思い描く未来

大樂勝弘

まろやかな表情の新成人

めかわ
(毎月1日発行)
Public Relations SAMEGAWA

2 February 2013



金婚を迎えたご夫婦を紹介

半世紀の歩み

Episode_01

緑川勝美さん 千代子さん

西山字押野在住／昭和37年4月結婚

ずっと農業をして生活してきました。作物の世話は欠かせないので家を空けられず、新婚旅行は行けませんでした。当時は珍しいことではなかったと思いますよ。

今は、夫婦2人でトマトや米などを作り、いろいろな野菜を「手まめ館」に出しています。これからも、消費者が安心して食べられる野菜を

作っていきたいですね。
孫が9人いて、よく顔を見せに来てくれます。孫たちの成長を楽しみに、健康を一番に考えて夫婦仲良く生活していきたいです。

80歳になったら農業をやめて、温泉旅行などに行きたいと思っています。今まで2人で旅行に行くことがありませんでしたから。 [談]

すくなくとも、動物たちは、我先にと逃げていきました。でもクリキンディーという名のハチドリだけは、森が燃えていました。動物たちはそれを見つけたり来たり、くちばしで水を一滴ずつ火の上に落としていました。動物たちはそれを見て、「そんなことをしていいのです。何になるんだ」と笑いました。クリキンディーはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」▼体長十センチにも満たない小さい鳥の一滴では山火事は消せないでしょ。何の効果もない無駄なことだと切り捨てるることは簡単かもしれません。でも、何十万何百万という動物たちが「私にできること」をしたら、火の勢いを止めることができたかも知れません。▼燃え盛る森に一滴の水を落とし続けたハチドリのように、職員、そして村民全員が心を一つにして、自分にできる限り、「ひとしづく」を考えた村づくりを行っています。

こちら
村長室

▼南米・アンデス地方の先住民族に伝わる民話「ハチドリ」のひとつです。